



システムポリシーの管理

システムポリシーを使用して、ASA FirePOWER モジュールで次のものを管理できます。

- 監査ログ設定
- メールリレーホストおよび通知アドレス
- SNMPポーリング設定
- STIGコンプライアンス

詳細については、次の各項を参照してください。

- [システムポリシーの作成\(40-1 ページ\)](#)
- [システムポリシーの編集\(40-2 ページ\)](#)
- [システムポリシーの適用\(40-3 ページ\)](#)
- [システムポリシーの削除\(40-3 ページ\)](#)

システムポリシーの作成

ライセンス:任意

システムポリシーを作成したら、それに名前と説明を割り当てます。次に、ポリシーのさまざまな側面(それぞれの項の説明を参照)を設定します。

新しいポリシーを作成する代わりに、別の ASA FirePOWER モジュールからシステムポリシーをエクスポートし、ASA FirePOWER モジュールにインポートすることができます。ニーズに合わせて、インポートされたポリシーを編集してから適用することができます。詳細については、[設定のインポートおよびエクスポート\(B-1 ページ\)](#)を参照してください。

システムポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [設定(Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定(ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル(Local)] > [システムポリシー(System Policy)] の順に選択します。
[システムポリシー(System Policy)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [ポリシーの作成(Create Policy)] をクリックします。
[ポリシーの作成(Create Policy)] ページが表示されます。
- ステップ 3** ドロップダウンリストから、新しいシステムポリシーのテンプレートとして使用する既存のポリシーを選択します。

- ステップ 4 新規ポリシーの名前を [新しいポリシー名 (New Policy Name)] フィールドに入力します。
- ステップ 5 新規ポリシーの説明を [新しいポリシーの説明 (New Policy Description)] フィールドに入力します。
- ステップ 6 [作成 (Create)] をクリックします。

システムポリシーが保存され、[システムポリシーの編集 (Edit System Policy)] ページが表示されます。システムポリシーのそれぞれの側面の設定については、次の項のいずれかを参照してください。

- [監査ログの設定 \(40-5 ページ\)](#)
- [メールリレーホストおよび通知アドレスの設定 \(40-7 ページ\)](#)
- [SNMPポーリングの設定 \(40-8 ページ\)](#)
- [STIGコンプライアンスの有効化 \(40-9 ページ\)](#)

システムポリシーの編集


ライセンス:任意

既存のシステムポリシーを編集できます。ASA FirePOWER モジュールに現在適用されているシステムポリシーを編集する場合は、変更を保存してからポリシーを再適用してください。詳細については、[システムポリシーの適用 \(40-3 ページ\)](#)を参照してください。

既存のシステムポリシーを編集するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル (Local)] > [システムポリシー (System Policy)] の順に選択します。

既存のシステムポリシーのリストを含む、[システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。

- ステップ 2 編集するシステムポリシーの横にある編集アイコン()をクリックします。

[ポリシーの編集 (Edit Policy)] ページが表示されます。ポリシー名とポリシーの説明を変更できます。システムポリシーのそれぞれの側面の設定については、次の項のいずれかを参照してください。

- [監査ログの設定 \(40-5 ページ\)](#)
- [メールリレーホストおよび通知アドレスの設定 \(40-7 ページ\)](#)
- [SNMPポーリングの設定 \(40-8 ページ\)](#)
- [STIGコンプライアンスの有効化 \(40-9 ページ\)](#)



(注) ASA FirePOWER モジュールに適用されているシステムポリシーを編集する場合は、編集が完了したら、更新したポリシーを再適用してください。[システムポリシーの適用 \(40-3 ページ\)](#)を参照してください。


- ステップ 3 [ポリシーを保存して終了 (Save Policy and Exit)] をクリックして変更を保存します。変更が保存され、[システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。

システムポリシーの適用

ライセンス:任意

ASA FirePOWER モジュールにシステムポリシーを適用できます。システムポリシーがすでに適用されている場合、再適用するまで、ポリシーに加えた変更は有効になりません。

システムポリシーを適用するには、次の手順を実行します。


-
- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル (Local)] > [システムポリシー (System Policy)] の順に選択します。
- [システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。
- ステップ 2** 適用するシステムポリシーの横にある適用アイコン()をクリックします。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] をクリックします。
- [システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。メッセージはシステムポリシーの適用のステータスを示します。
-

システムポリシーの削除

ライセンス:任意

システムポリシーは、使用中でも削除できます。使用中の場合は、新しいポリシーが適用されるまで現在のポリシーが使用されます。デフォルトのシステムポリシーは削除できません。

システムポリシーを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル (Local)] > [システムポリシー (System Policy)] の順に選択します。
- [システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。
- ステップ 2** 削除するシステムポリシーの横にある削除アイコン()をクリックします。ポリシーを削除するには、[OK] をクリックします。
- [システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。ポリシーの削除について確認を求めるポップアップメッセージが表示されます。
-

システムポリシーの設定

ライセンス:任意

さまざまなシステムポリシーの設定を行うことができます。システムポリシーのそれぞれの側面の設定については、次の項のいずれかを参照してください。

- [アプライアンスのアクセスリストの設定 \(40-4 ページ\)](#)
- [監査ログの設定 \(40-5 ページ\)](#)

- メールリレーホストおよび通知アドレスの設定(40-7 ページ)
- SNMP ポーリングの設定(40-8 ページ)
- STIG コンプライアンスの有効化(40-9 ページ)

アプライアンスのアクセスリストの設定

ライセンス:任意

[アクセスリスト (Access List)] ページを使用して、特定ポートのアプライアンスにどのコンピュータがアクセス可能かを制御できます。デフォルトでは、Web インターフェイスへのアクセスに使用されるポート 443 (Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS)) と、コマンドラインへのアクセスに使用されるポート 22 (Secure Shell (SSH)) は、あらゆる IP アドレスに対して有効です。ポート 161 を介した SNMP アクセスを追加することもできます。SNMP 情報をポーリングするには、使用する任意のコンピュータで SNMP アクセスを追加する必要があることに注意してください。



注意

デフォルトでは、アプライアンスへのアクセスは制限されません。よりセキュアな環境でアプライアンスを稼働させるために、特定の IP アドレスに対してアプライアンスへのアクセスを追加してから、デフォルトの任意のオプションを削除することを検討してください。

アクセスリストは、システムポリシーの一部です。新しいシステムポリシーを作成するか、既存のシステムポリシーを編集することによって、アクセスリストを指定できます。いずれの場合も、システムポリシーを適用するまでアクセスリストは有効になりません。

このアクセスリストは、外部データベースアクセスを制御しないので注意してください。外部データベースのアクセスリストの詳細については、[クラウド通信の有効化\(41-2 ページ\)](#)を参照してください。

アクセスリストを設定するには、次の手順を実行します。

アクセス:Admin

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル (Local)] > [システムポリシー (System Policy)] の順に選択します。

[システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 既存のシステムポリシーのアクセスリストを変更するには、システムポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- 新しいシステムポリシーの一部としてアクセスリストを設定するには、[ポリシーの作成 (Create Policy)] をクリックします。

[システムポリシーの作成\(40-1 ページ\)](#)で説明されているように、システムポリシーの名前および説明を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

いずれの場合も、[アクセスリスト (Access List)] ページが表示されます。

ステップ 3 現在の設定の 1 つを削除するために、削除アイコン(🗑)をクリックすることもできます。設定が削除されます。



注意

アプライアンスのインターフェイスへの接続に現在使用されている IP アドレスへのアクセスを削除し、「IP=any port=443」のエントリが存在しない場合、ポリシーを適用した時点でシステムへのアクセスは失われます。

- ステップ 4** 1つ以上の IP アドレスへのアクセスを追加するために、[ルールの追加(Add Rules)] をクリックすることもできます。
[IP アドレスの追加(Add IP Address)] ページが表示されます。
- ステップ 5** [IP アドレス (IP Address)] フィールドでは、追加する IP アドレスに応じて次のオプションがあります。
- 厳密な IP アドレス(192.168.1.101 など)
 - CIDR 表記を使用した IP アドレス ブロック(192.168.1.1/24 など)
FireSIGHT システム での CIDR の使用方法については、[IP アドレスの表記規則\(1-4 ページ\)](#) を参照してください。
 - any(任意の IP アドレスを指定)
- ステップ 6** [SSH]、[HTTPS]、[SNMP]、またはこれらのオプションの組み合わせを選択して、これらの IP アドレスで有効にするポートを指定します。
- ステップ 7** [追加(Add)] をクリックします。
[アクセスリスト (Access List)] ページが再度表示され、ユーザが行った変更が反映されます。
- ステップ 8** [ポリシーを保存して終了(Save Policy and Exit)] をクリックします。
システム ポリシーが更新されます。システム ポリシーを適用するまで変更は有効になりません。詳細については、[システムポリシーの適用\(40-3 ページ\)](#) を参照してください。

監査ログの設定

ライセンス:任意

ASA FirePOWER モジュール が外部ホストに監査ログをストリーミングするように、システムポリシーを設定できます。



(注)

外部ホストが機能しており、監査ログを送信する ASA FirePOWER モジュール からアクセスできることを確認する必要があります。

送信元ホスト名は送信される情報の一部です。ファシリティ、重大度、およびオプションのタグを使用して監査ログ ストリームをより詳細に識別できます。ASA FirePOWER モジュール は、システムポリシーが適用されるまで監査ログを送信しません。

この機能を有効にしてポリシーを適用し、監査ログを受け入れるように宛先ホストを設定した後で、syslog メッセージが送信されます。次に、出力構造の例を示します。

```
Date Time Host [Tag] Sender: [User_Name]@[User_IP], [Subsystem], [Action]
```

現地の日付、時刻、およびホスト名の後に、角括弧で囲まれたオプション タグが続き、送信側デバイス名の後に監査ログ メッセージが続きます。

次に例を示します。

```
Mar 01 14:45:24 localhost [TAG] Dev-DC3000: admin@10.1.1.2, Operations > Monitoring, Page View
```

監査ログの設定を行うには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [設定(Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定(ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル(Local)] > [システムポリシー(System Policy)] の順に選択します。
[システムポリシー(System Policy)] ページが表示されます。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 既存のシステムポリシーの監査ログの設定を変更するには、システムポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- 新しいシステムポリシーの一部として監査ログ設定を設定するには、[ポリシーの作成(Create Policy)]をクリックします。

[システムポリシーの作成\(40-1 ページ\)](#)で説明されているように、システムポリシーの名前および説明を入力し、[保存(Save)]をクリックします。

ステップ 3 [監査ログ設定(Audit Log Settings)]をクリックします。

[監査ログ設定(Audit Log Settings)] ページが表示されます。

ステップ 4 [監査ログを Syslog に送信(Send Audit Log to Syslog)] ドロップダウンメニューから、[有効(Enabled)]を選択します。(デフォルト設定では [無効(Disabled)] になっています。)

ステップ 5 [ホスト(Host)] フィールドにあるホストの IP アドレスまたは完全修飾名を使用して、監査情報の宛先ホストを指定します。デフォルトポート(514)が使用されます。



注意

監査ログを受け入れるように設定しているコンピュータが、リモートメッセージを受け入れるようにセットアップされていない場合、ホストは監査ログを受け入れません。

ステップ 6 [ファシリティ(Facility)] フィールドから syslog ファシリティを選択します。

ステップ 7 [重大度(Severity)] フィールドから重大度を選択します。

ステップ 8 必要に応じて、[タグ(オプション)(Tag (optional))] フィールドで参照タグを挿入します。

ステップ 9 定期的な監査ログの更新を外部 HTTP サーバに送信するには、[監査ログを HTTP サーバに送信(Send Audit Log to HTTP Server)] ドロップダウンリストから [有効(Enabled)] を選択します。デフォルト設定では [無効(Disabled)] になっています。

ステップ 10 [監査情報を送信する URL(URL to Post Audit)] フィールドに、監査情報の送信先 URL を指定します。次にリストされている HTTP POST 変数を要求するリスナープログラムに対応する URL を入力する必要があります。

- subsystem
- actor
- event_type
- message
- action_source_ip
- action_destination_ip
- 結果
- 時刻
- tag(上記のように定義されている場合)



注意

暗号化されたポストを許可するには、HTTPS URL を使用する必要があります。外部 URL に監査情報を送信すると、システムパフォーマンスに影響を与える場合がありますので注意してください。

ステップ 11 [ポリシーを保存して終了(Save Policy and Exit)] をクリックします。

システムポリシーが更新されます。システムポリシーを適用するまで、変更は有効になりません。詳細については、[システムポリシーの適用\(40-3 ページ\)](#)を参照してください。

メールリレーホストおよび通知アドレスの設定

ライセンス:任意

次の処理を行う場合、メールホストを設定する必要があります。

- イベントベースのレポートの電子メール送信
- スケジュールされたタスクのステータスレポートの電子メール送信
- 変更調整レポートの電子メール送信
- データ切り捨て通知の電子メール送信

アプライアンスとメールリレーホスト間の通信に使用する暗号化方式を選択し、必要に応じて、メールサーバの認証資格情報を指定できます。設定を行った後、指定された設定を使用してアプライアンスとメールサーバとの間の接続をテストできます。

メールリレーホストを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定(Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定(ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル(Local)] > [システムポリシー(System Policy)] の順に選択します。

[システムポリシー(System Policy)] ページが表示されます。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 既存のシステムポリシーの電子メールの設定を変更するには、システムポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- 新しいシステムポリシーの一部として電子メールの設定を行うには、[ポリシーの作成(Create Policy)] をクリックします。
[システムポリシーの作成\(40-1 ページ\)](#) で説明されているように、システムポリシーの名前および説明を入力し、[保存(Save)] をクリックします。

ステップ 3 [電子メール通知(Email Notification)] をクリックします。

[電子メール通知の設定(Configure Email Notification)] ページが表示されます。

ステップ 4 [メールリレーホスト(Mail Relay Host)] フィールドで、使用するメールサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。



(注) 入力したメールホストはアプライアンスからのアクセスを許可している必要があります。

ステップ 5 [ポート番号(Port Number)] フィールドに、電子メールサーバで使用するポート番号を入力します。ポートは通常、暗号化を使用しない場合は 25、SSLv3 を使用する場合は 465、TLS を使用する場合は 587 です。

ステップ 6 暗号化方式を選択するには、次のオプションがあります。

- Transport Layer Security を使用してアプライアンスとメールサーバ間の通信を暗号化するには、[暗号化方式(Encryption Method)] ドロップダウンリストから [TLS] を選択します。
- セキュアソケットレイヤを使用してアプライアンスとメールサーバ間の通信を暗号化するには、[暗号化方式(Encryption Method)] ドロップダウンリストから [SSLv3] を選択します。
- アプライアンスとメールサーバ間の非暗号化通信を許可するには、[暗号化方式(Encryption Method)] ドロップダウンリストから [なし(None)] を選択します。

アプライアンスとメールサーバとの間の暗号化された通信では、証明書の検証は不要であることに注意してください。

- ステップ 7** アプライアンスによって送信されるメッセージの送信元の電子メールアドレスとして使用する有効な電子メールアドレスを、[送信元アドレス(From Address)] フィールドに入力します。
- ステップ 8** 必要に応じて、メールサーバに接続する際にユーザ名とパスワードを指定するには、[認証を使用(Use Authentication)] を選択します。[ユーザ名(Username)] フィールドにユーザ名を入力します。パスワードを [パスワード(Password)] フィールドに入力します。
- ステップ 9** 設定したメールサーバを使用してテストメールを送信するには、[テストメールのサーバ設定(Test Mail Server Settings)] をクリックします。
テストの成功または失敗を示すメッセージがボタンの横に表示されます。
- ステップ 10** [ポリシーを保存して終了(Save Policy and Exit)] をクリックします。
システムポリシーが更新されます。システムポリシーを適用するまで変更は有効になりません。詳細については、[システムポリシーの適用\(40-3 ページ\)](#) を参照してください。

SNMP ポーリングの設定

ライセンス:任意

システムポリシーを使用して、アプライアンスの Simple Network Management Protocol (SNMP) ポーリングを有効化できます。SNMP 機能は、SNMP プロトコルのバージョン 1、2、および 3 をサポートします。

システムポリシー SNMP 機能を有効にすると、アプライアンスで SNMP トラップを送信できなくなり、MIB の情報はネットワーク管理システムによるポーリングでのみ使用可能になることに注意してください。



(注)

アプライアンスをポーリングするには、使用する任意のコンピュータで SNMP アクセスを追加する必要があります。詳細については、[アプライアンスのアクセスリストの設定\(40-4 ページ\)](#) を参照してください。SNMP MIB にはアプライアンスの攻撃に使用される可能性がある情報も含まれているので注意してください。シスコでは、SNMP アクセスのアクセスリストを MIB のポーリングに使用される特定のホストに制限することを推奨しています。シスコでは、SNMPv3 を使用し、ネットワーク管理アクセスには強力なパスワードを使用することも推奨しています。

SNMP ポーリングを設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [設定(Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定(ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル(Local)] > [システムポリシー(System Policy)] の順に選択します。
[システムポリシー(System Policy)] ページが表示されます。
- ステップ 2** 次の選択肢があります。
- 既存のシステムポリシーの SNMP ポーリングの設定を変更するには、システムポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
 - 新しいシステムポリシーの一部として SNMP ポーリングの設定を行うには、[ポリシーの作成(Create Policy)] をクリックします。
[システムポリシーの作成\(40-1 ページ\)](#) で説明されているように、システムポリシーの名前および説明を入力し、[作成(Create)] をクリックします。
- ステップ 3** アプライアンスのポーリングに使用する各コンピュータに SNMP アクセスを追加していない場合は、ここで追加してください。詳細については、[アプライアンスのアクセスリストの設定\(40-4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 4 [SNMP] をクリックします。

[SNMP] ページが表示されます。

ステップ 5 [SNMP バージョン (SNMP Version)] ドロップダウン リストから、使用する SNMP バージョンを選択します。

ドロップダウン リストに選択したバージョンが表示されます。

ステップ 6 次の選択肢があります。

- [バージョン 1 (Version 1)] または [バージョン 2 (Version 2)] を選択した場合は、[コミュニティ スtring (Community String)] フィールドに SNMP コミュニティ名を入力します。ステップ 15 に進みます。
- [Version 3] を選択した場合、[ユーザを追加 (Add User)] をクリックするとユーザ定義ページが表示されます。

ステップ 7 [ユーザ名 (Username)] フィールドにユーザ名を入力します。

ステップ 8 [認証プロトコル (Authentication Protocol)] ドロップダウン リストから、認証に使用するプロトコルを選択します。

ステップ 9 [認証パスワード (Authentication Password)] フィールドに SNMP サーバの認証に必要なパスワードを入力します。

ステップ 10 [認証パスワード (Authentication Password)] フィールドのすぐ下にある [パスワードの確認 (Verify Password)] フィールドに認証パスワードを再入力します。

ステップ 11 使用するプライバシー プロトコルを [プライバシー プロトコル (Privacy Protocol)] リストから選択するか、プライバシー プロトコルを使用しない場合は [なし (None)] を選択します。

ステップ 12 [プライバシー パスワード (Privacy Password)] フィールドに SNMP サーバに必要な SNMP プライバシー キーを入力します。

ステップ 13 [プライバシー パスワード (Privacy Password)] フィールドのすぐ下にある [パスワードの確認 (Verify Password)] フィールドにプライバシー パスワードを再入力します。

ステップ 14 [追加 (Add)] をクリックします。

ユーザが追加されます。ステップ 6 ~ 13 までを繰り返して、さらにユーザを追加できます。ユーザを削除するには、削除アイコン(🗑️)をクリックします。

ステップ 15 [ポリシーを保存して終了 (Save Policy and Exit)] をクリックします。

システム ポリシーが更新されます。システム ポリシーを適用するまで変更は有効になりません。詳細については、[システム ポリシーの適用 \(40-3 ページ\)](#) を参照してください。

STIG コンプライアンスの有効化

ライセンス:任意

米国連邦政府内の組織は、Security Technical Implementation Guides (STIG) に示されている一連のセキュリティ チェックリストに準拠しなければならない場合があります。STIG コンプライアンス オプションは、米国国防総省によって定められた特定の要件に準拠することを目的とした設定を有効にします。

展開内の ASA FirePOWER モジュールで STIG コンプライアンスを有効にする場合は、すべての ASA FirePOWER モジュール で有効にする必要があります。

STIG コンプライアンスを有効にした場合、適用可能なすべての STIG に厳格なコンプライアンスが保証されるわけではありません。

STIG コンプライアンスを有効にすると、ローカル シェル アクセス アカウントのパスワードの複雑さや維持に関するルールが変わります。さらに、STIG コンプライアンス モードでは、ssh のリモートストレージを使用できません。

STIG コンプライアンスが有効なシステムポリシーを適用すると、アプライアンスが強制的に再起動されるので注意してください。すでに STIG が有効になっているアプライアンスに STIG が有効なシステムポリシーを適用した場合、アプライアンスは再起動しません。STIG が無効なシステムポリシーを STIG が有効になっているアプライアンスに適用した場合、STIG は引き続き有効であり、アプライアンスはリブートしません。



注意

サポートからの支援なしでこの設定を無効にすることはできません。また、この設定はシステムのパフォーマンスに大きく影響する可能性があります。シスコでは、米国国防総省のセキュリティ要件に準拠する以外の目的で、STIG コンプライアンスを有効化することを推奨しません。

STIG コンプライアンスを有効にするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [ローカル (Local)] > [システムポリシー (System Policy)] の順に選択します。

[システムポリシー (System Policy)] ページが表示されます。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 既存のシステムポリシーの時間の設定を変更するには、システムポリシーの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
- 新しいシステムポリシーの一部として時間の設定を行うには、[ポリシーの作成 (Create Policy)] をクリックします。

[システムポリシーの作成 \(40-1 ページ\)](#) で説明されているように、システムポリシーの名前および説明を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 [STIG コンプライアンス (STIG Compliance)] をクリックします。

[STIG コンプライアンス (STIG Compliance)] ページが表示されます。

ステップ 4 STIG コンプライアンスをアプライアンスで永続的に有効にする場合は、[STIG コンプライアンスを有効化 (Enable STIG Compliance)] を選択します。



注意

STIG コンプライアンスが有効なポリシーを適用した後、アプライアンスで STIG コンプライアンスを無効にすることはできません。コンプライアンスを無効にする必要がある場合は、サポートに連絡してください。

ステップ 5 [ポリシーを保存して終了 (Save Policy and Exit)] をクリックします。

システムポリシーが更新されます。システムポリシーを適用するまで変更は有効になりません。詳細については、[システムポリシーの適用 \(40-3 ページ\)](#) を参照してください。

STIG コンプライアンスを有効にするシステムポリシーをアプライアンスに適用すると、アプライアンスが再起動するので注意してください。STIG が有効なシステムポリシーをすでに STIG が有効になっているアプライアンスに適用した場合は、アプライアンスはリブートしないことに注意してください。